

ARUNの社会的インパクト評価

2015年9月15日
ARUN 功能聡子



ARUNの活動

参加型の社会的投資プラットフォームの構築

ARUNは、**起業家と投資家をつなぎ**、
より持続的で豊かな共生社会に資する「**意思あるお金**」の
フローを創出するため、
社会的投資のプラットフォームを構築します

投資先（途上国）

社会起業家
社会的企業



投資家（日本）

社会的投資に関心の
ある個人・企業



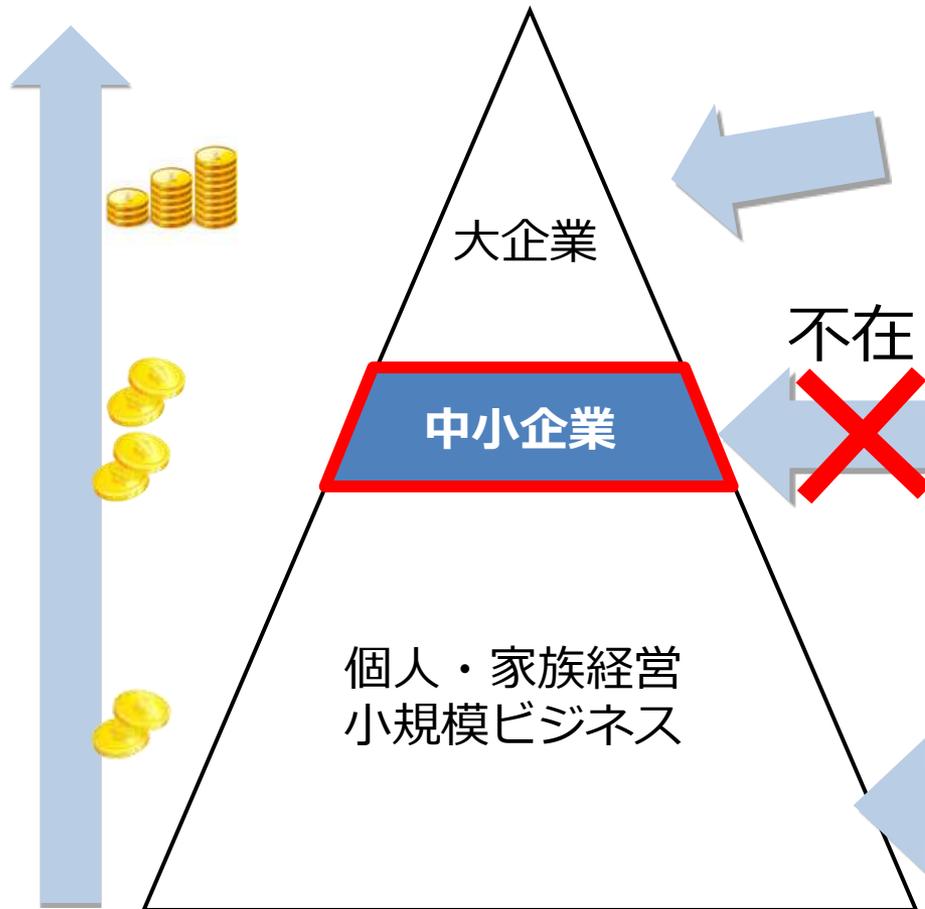
ARUN

社会的投資プラットフォーム

投資家と投資先の
コミュニケーションをサポート

資金を必要とする社会起業家へ十分には届いていません

必要資金規模



現存する主な資金提供者

商業金融機関

商業金融機関にとって

- 融資を行う手間がかかる
 - 未整備な財務諸表
 - 不十分な物的担保
- カントリーリスク

マイクロファイナンス機関にとって

- 必要資金規模が大きい
- 融資期間が長い

マイクロファイナンス機関

ARUNによるこれまでの社会的投資の取り組み

ARUNは、
 経済的リターン確保の実績を作った日本唯一の社会的投資機関であり、
 「途上国+投資手法+バリューアップ」に強みを持っています



インド 1社 50,000USD

保健医療/IT：無医村への医療サービス提供



カンボジア 5社 1,315,000USD

農業：有機農産物の流通事業

美容：ヘアエクステ製造を通じた女性のエンパワーメント事業

IT/教育：農村出身の青年の教育・就労支援事業

ホテル：エシカルツーリズム推進事業

農村電化：無電化地域でのソーラーパネル販売事業

ARUNの投資による社会的インパクト

エコロジカルな農業技術へのアクセス



140,000 世帯

農産物の海外市場へのアクセス



1,213 世帯

電気へのアクセス



3,897 世帯

医療へのアクセス



22,000 人

収入向上・雇用機会



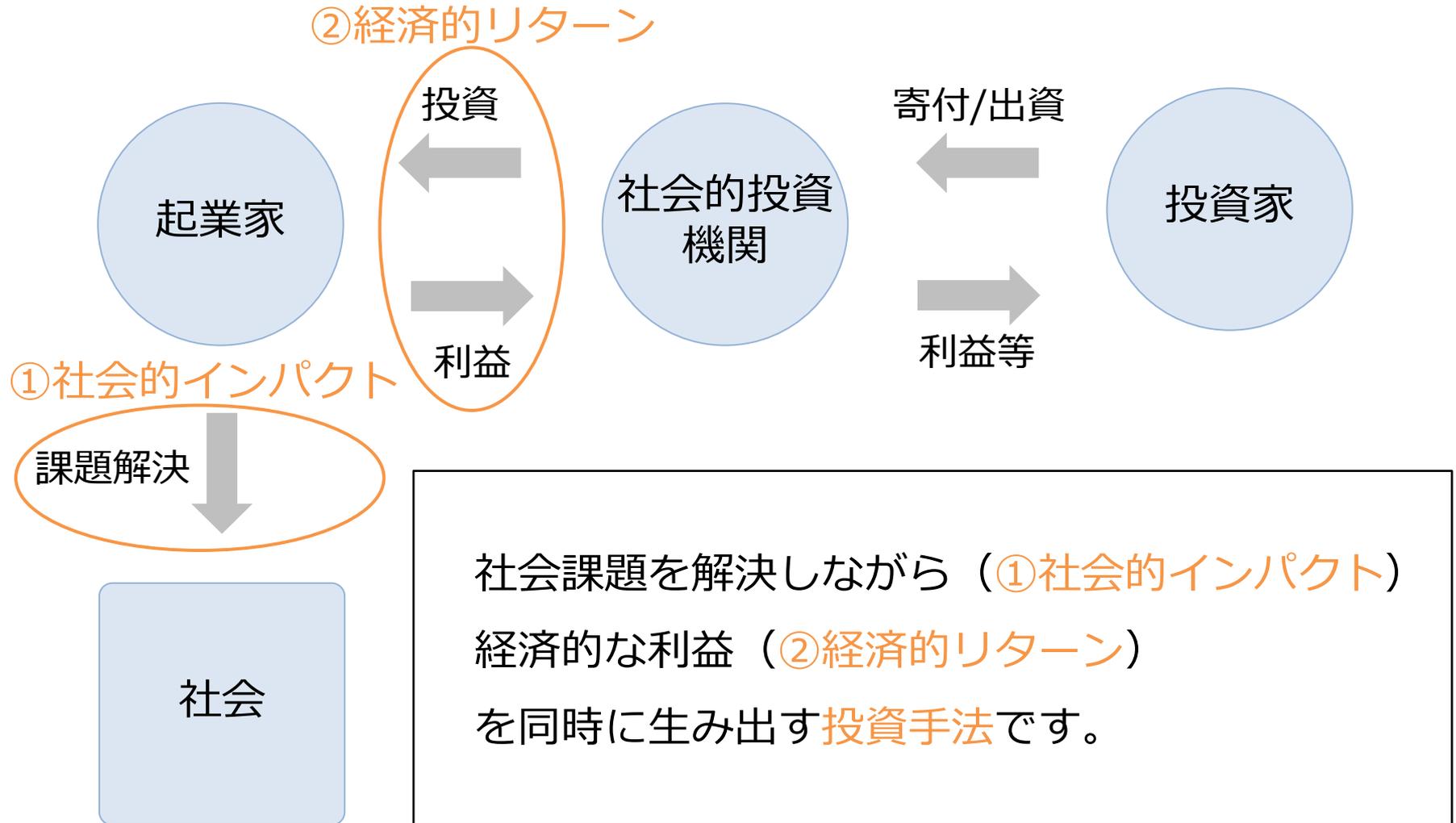
9,420 世帯

女性のエンパワーメント



6,272 人

社会的投資とは？



社会的「投資」と社会性「評価」

ARUNの投資方針（抜粋）

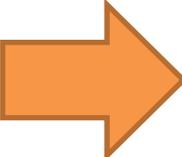
ARUNは、参加型の社会的投資プラットフォームの構築を通じて、途上国の人々のエンパワーメントと機会の創出を行い、「地球上のどこに生まれた人も、ひとりひとりの才能を発揮できる社会」を創ることを目指します。

ARUNの投資先は、途上国で「貧困」に対して取り組む社会起業家ならびに起業家による事業です。彼らは、社会に変革を起こし、自らの手で社会を発展させようとする強い意志を持って、自立的なビジネスの力により貧困を削減し、社会に変革をもたらそうとしています。ARUNは、そのような社会起業家に対して必要な金銭的・人的資源を提供し、事業ステージ・事業形態にあわせて、知識・技術・ネットワークを提供することにより経営支援を行い、投資先企業のバリューアップを目指します。

一般に、途上国では、銀行等による資金仲介機能が不十分であり、せつかくの投資機会が十分に活かされていません。その背景には、貯蓄不足といった金銭的な問題だけでなく、投資機会をサポートする仕組みが不十分であるとの問題があります。ARUNは、我々の目指す社会的投資プラットフォームを通じてそのようなインバランスを是正し、途上国の持続可能な経済発展の一助になることを目指します。

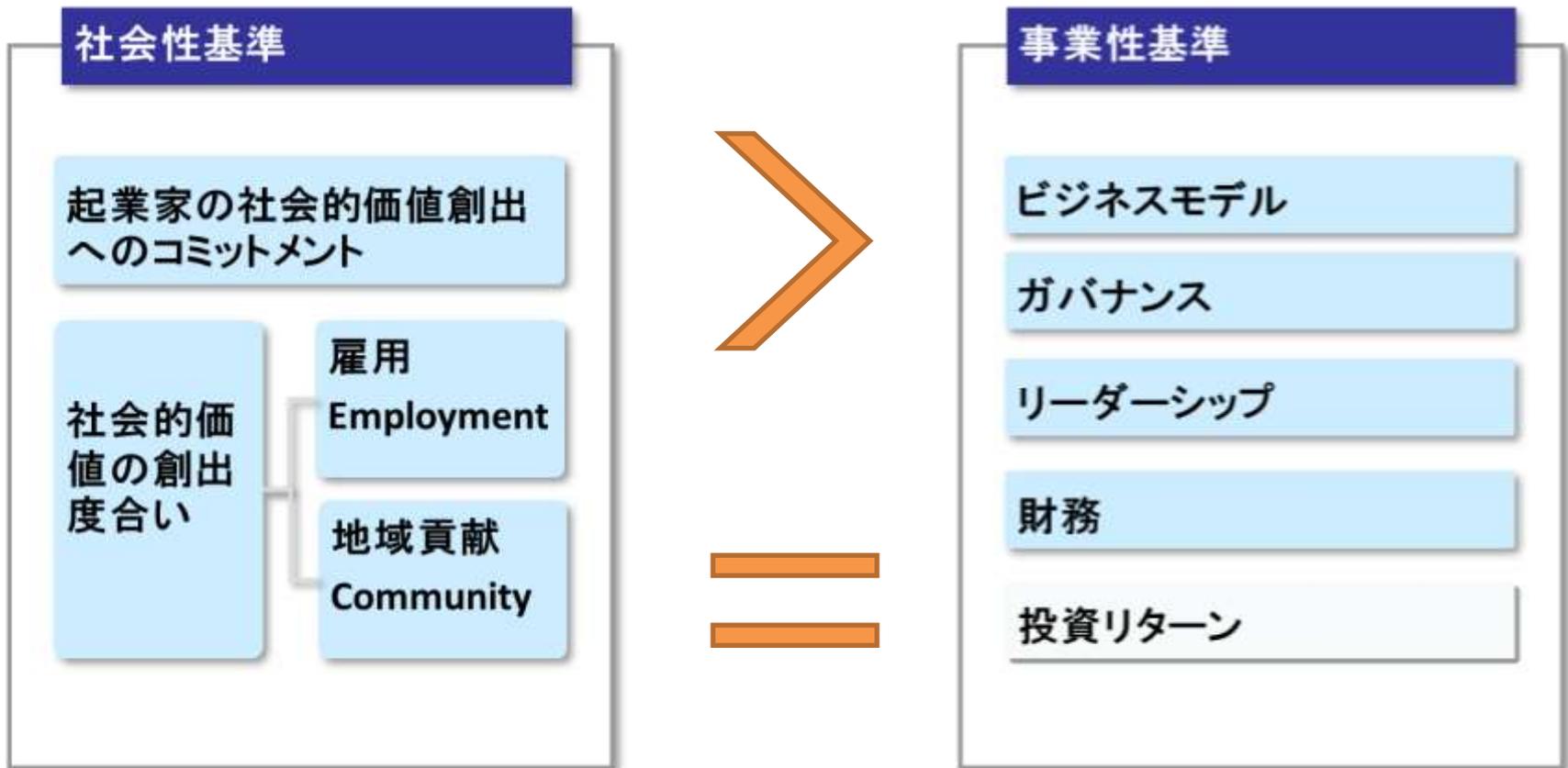
ARUNの目指す社会的投資プラットフォームとは、投資家と社会起業家が、相互に理解し合い、刺激し合いながら、事業の社会的価値向上を通じて社会的インパクトを増大させていく仕組みです。ここでは、単なる資金仲介だけでなく、様々なスキル・知識・ノウハウ・労働力といった人的資源も我々のネットワークを通じて仲介できる仕組みを目指します。ARUNの目指す社会的投資プラットフォームでは、金銭的資本を提供するメンバーだけが投資家となるのではなく、様々な人的資本を支援するメンバーも投資家です。ARUNは、その社会的投資プラットフォームを通じ、それら投資価値の最大化を目指します。

ARUNの目指す投資価値の最大化とは、金融的なリターンのみならず、

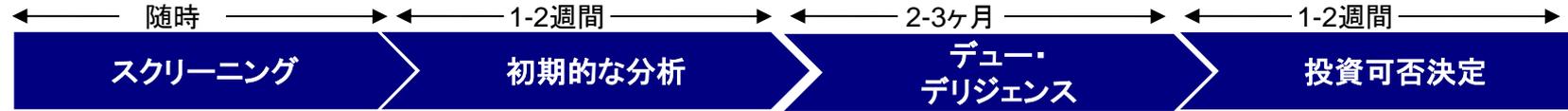
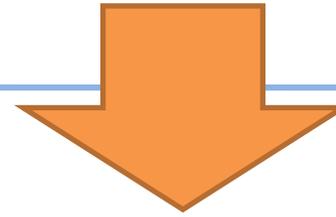
 **社会的変革へのインパクトといった社会的なリターンの増大**

を重視し、持続可能な長期的なリターンの最大化を目指します。

ARUNの「投資」基準



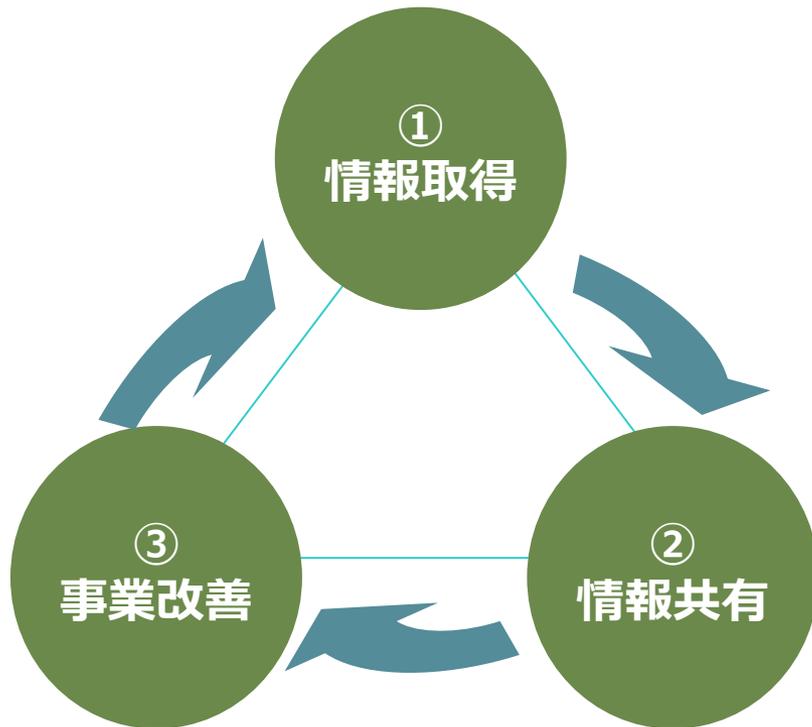
ARUNの投資プロセス



	随時 スクリーニング	1-2週間 初期的な分析	2-3ヶ月 デュー・デリジェンス	1-2週間 投資可否決定
概要	現地事務所による案件の収集と有望な投資先の抽出を行う	基礎的な情報を既定フォーマットに入力、デュー・デリジェンスに進むか決定する	全79項目について詳細な情報収集・分析を行い、投資可否やリスクの洗い出しを行う	代表・ディレクター会による最終的な投資可否判断を行う
意思決定者	現地事務所	投資委員会	投資委員会	ディレクター会
作業主体	現地事務所	起業家／現地事務所	投資委員会／現地事務所	—
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ●案件の募集 ●有望案件の抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎情報入力フォーマット提供 ●基礎情報の受領 ●デュー・デリジェンス可否判断 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析・情報収集 ✓QAリストによるコミュニケーション ✓インタビュー ✓登記情報の確認 ✓財務分析 ✓On-site visi(資産の実在性把握、など) ✓デスクトップ調査 	<ul style="list-style-type: none"> ●ARUN全体の投資方針やポートフォリオを踏まえた投資可否判断
アウトプット	潜在投資先リスト	基礎情報入力済み分析フォーマット	デュー・デリジェンスレポート	—

社会性評価の手法

社会性評価の目的



① 情報取得

投資先企業の現状把握

② 情報共有

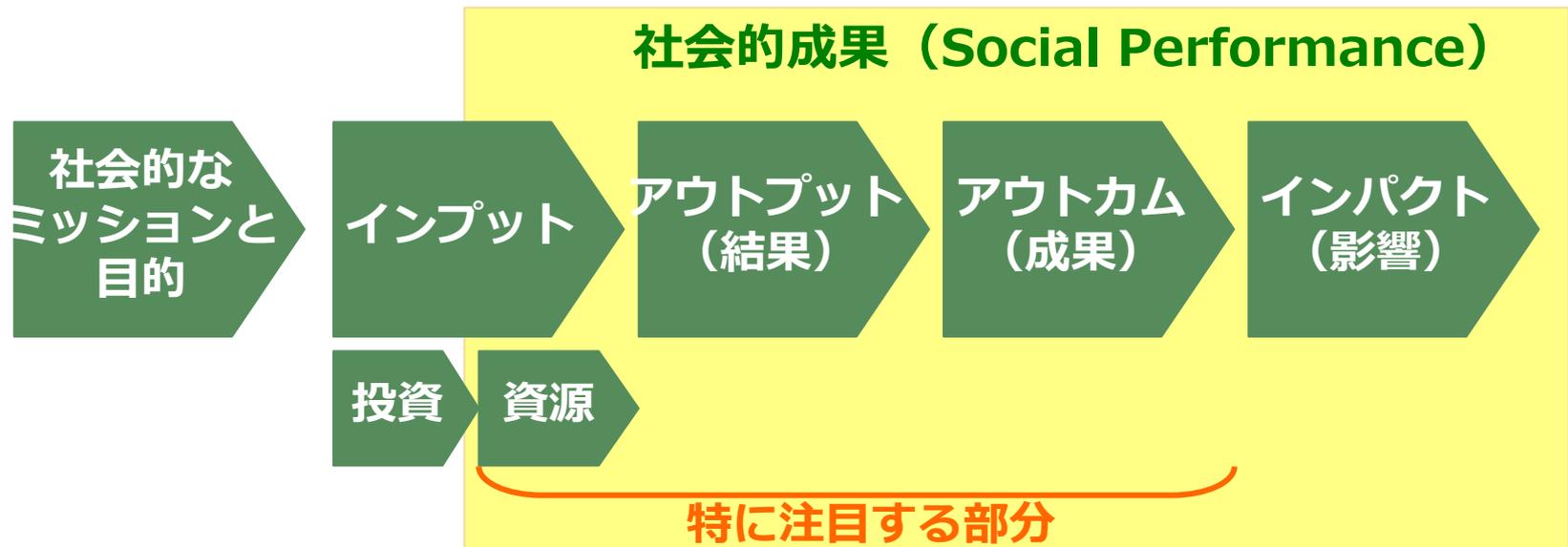
パートナー（出資者）との情報共有、ステイクホルダー（利害関係者）との対話促進

③ 事業改善

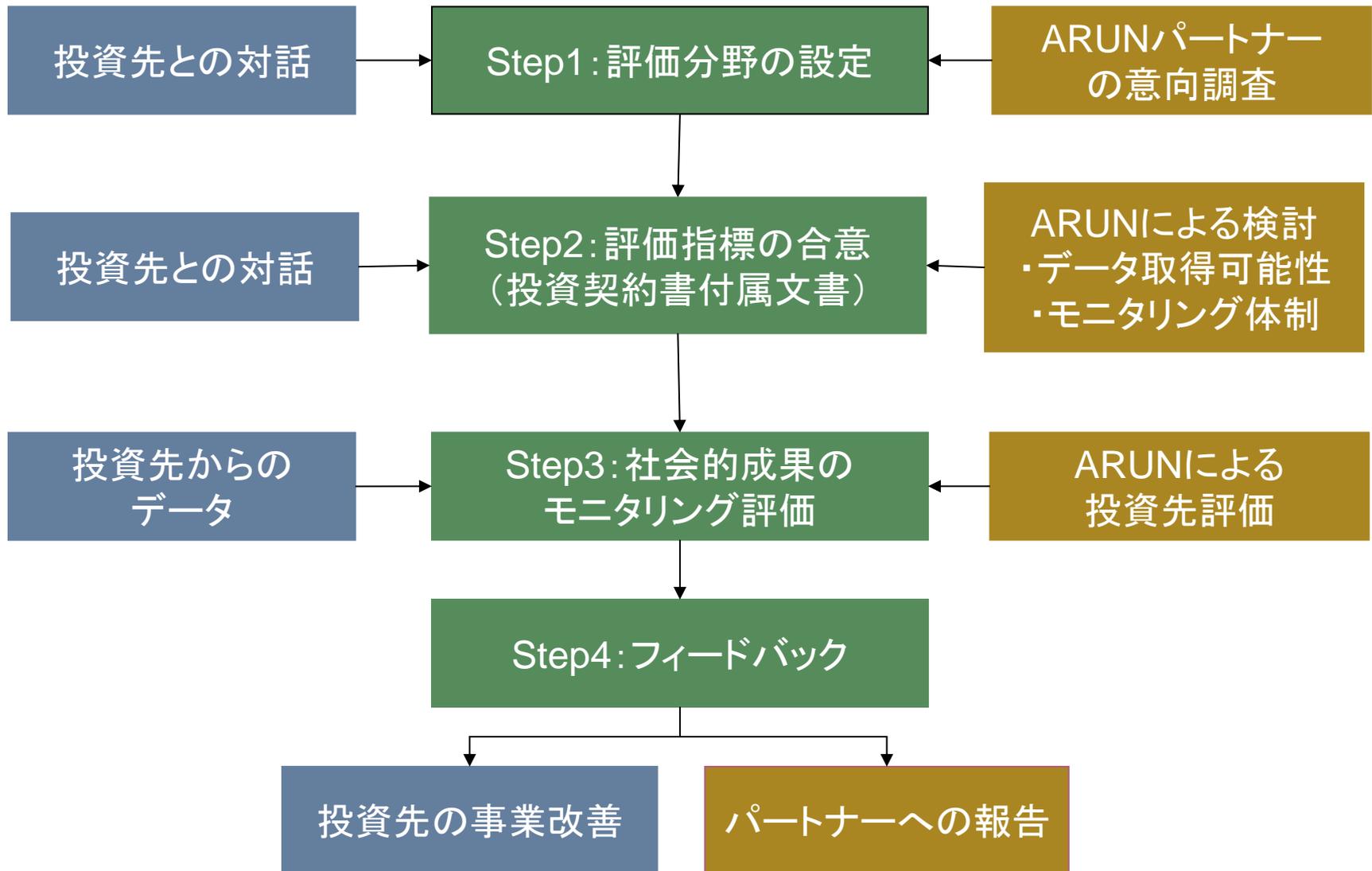
把握した結果を踏まえて、投資先企業の事業改善

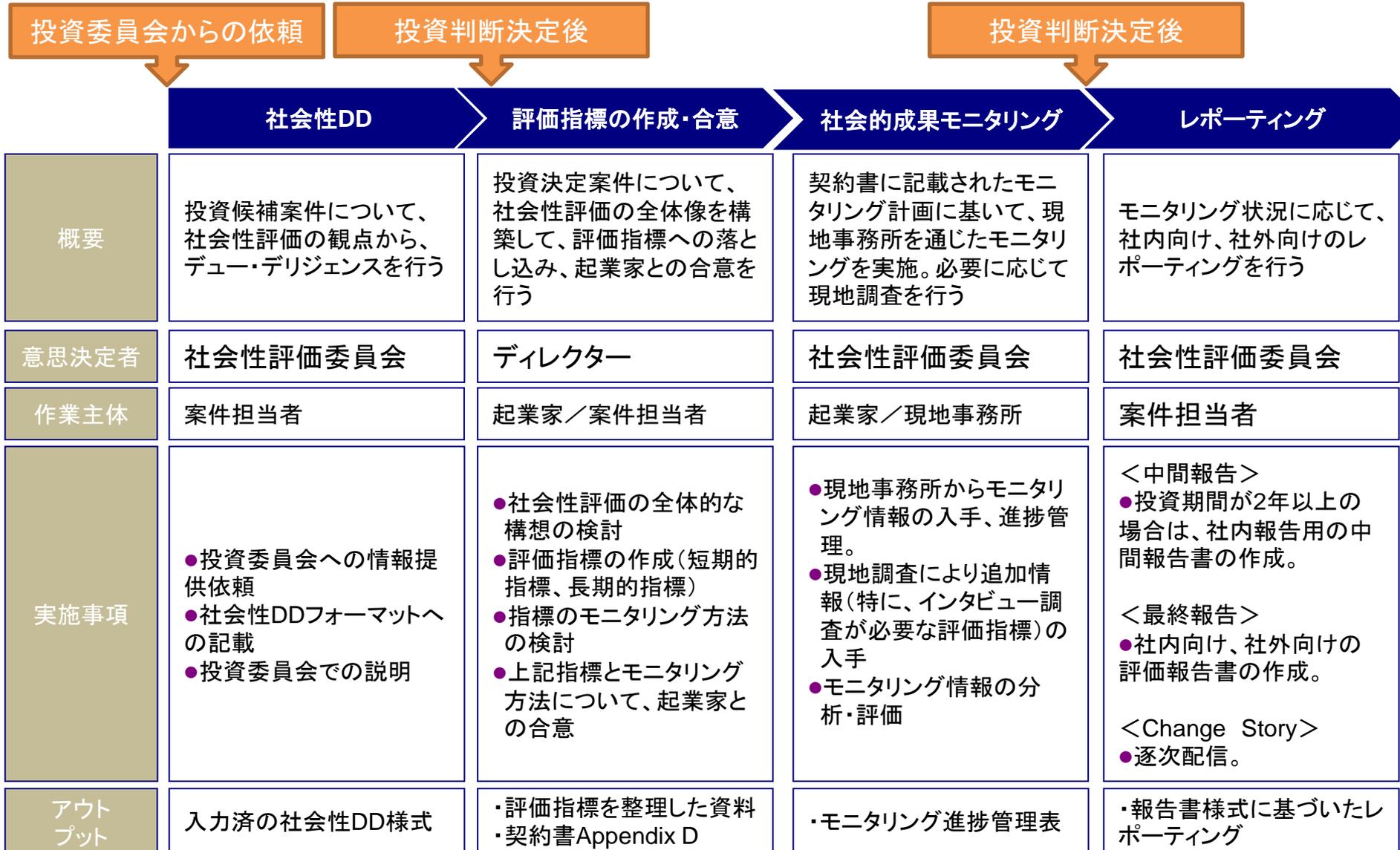
社会性評価の手法

- ① 投資先企業が実施する「事業」とその「ミッション」「目的」、更にそれに対する「インプット（投入）」を明確化する。（※「ミッション」達成の手段として事業を捉える）
- ② 「目的」に対して、どのような結果をだしているのか（アウトプット）、いかに成果をあげているか（アウトカム）、最終的にどのような影響をもたらしているか（インパクト）を総合的に評価する。
- ③ 事業の「社会的成果」をモニタリング評価する際には、事業によって影響を受ける関連主体（ステイクホルダー）を洗い出し、特定する。

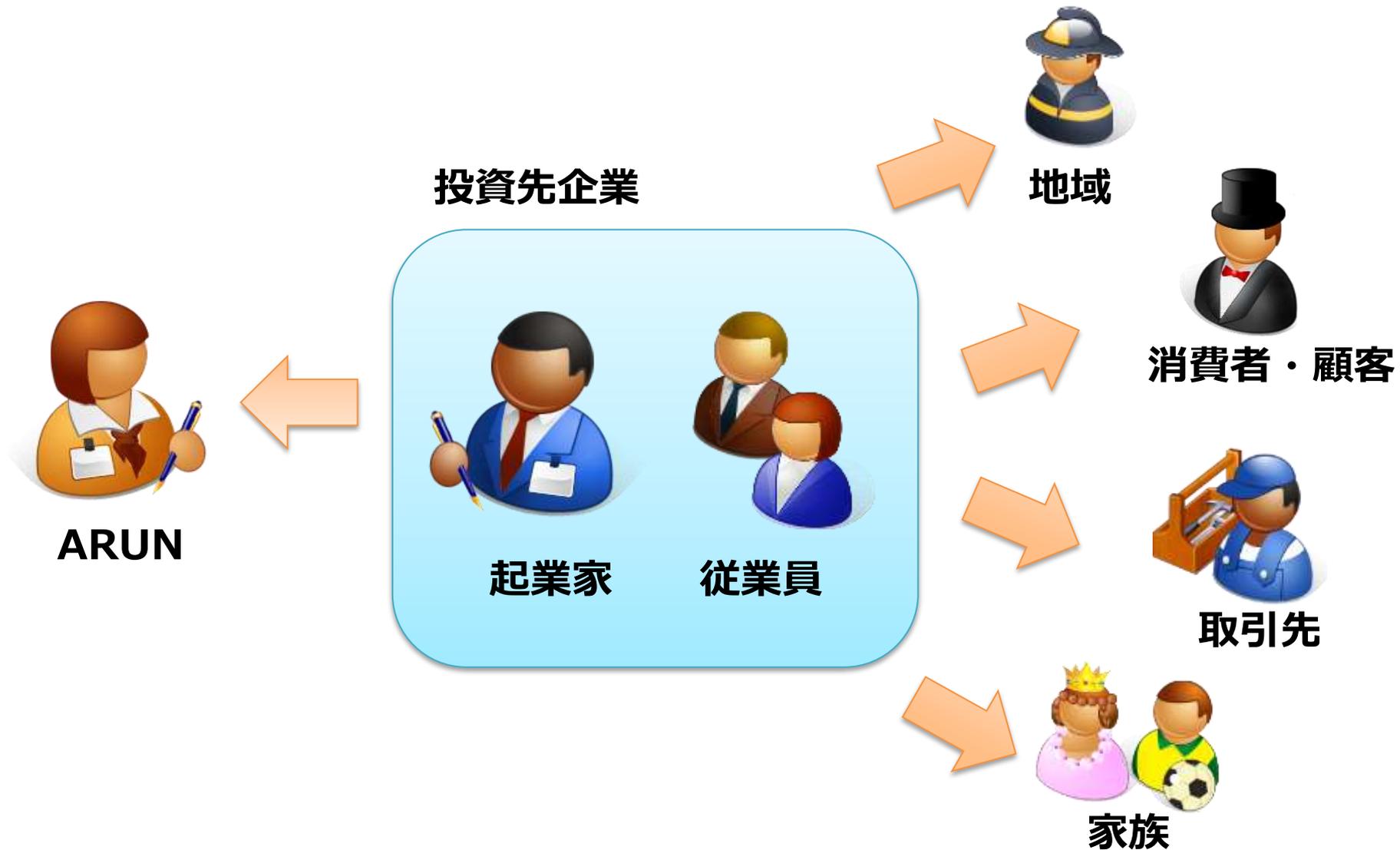


社会性評価のプロセス





社会的成果のモニタリング範囲



ARUNの社会性評価の特徴

ARUNの社会性評価の特徴

1. 投資事業のインパクト

- ミッション達成の手段として事業を捉える
- 投資契約上での指標合意
- バリューチェーンを意識した評価
- モニタリング結果の共有と活用

2. 数値化とストーリー

- インタビュー形式でのモニタリング
- きらきらストーリー

3. 他機関との連携

- IRIS指標

4. インパクトレポートの作成

THANK YOU!

ARUN

*Creating a society
which can bring every person's ability
into full play regardless of
where s/he is born*

WEB: arunllc.jp **Facebook:** facebook.com/ARUNLLC **Twitter:** [@ARUNLLC](https://twitter.com/ARUNLLC)